

平成 25(2013)年度 大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書



2013年度



伊達市霊山町泉原地区集落調査



2014年3月



桜の聖母短期大学
がんばっぺサークル

【目次】

I はじめに

1. サークル概要
2. 調査地域概要
 - (1) 位置
 - (2) 世帯
 - (3) 歴史
3. 基本データ
 - (1) 調査実施者
 - (2) 活動スケジュール

II 平成 24 年度提案した活性化策の概要

III 実証実験の活動内容

1. 参加したイベント内容
 - (1) ノルディックウォーキング
 - (2) サマーフェスティバル
 - (3) 体操指導
 - (4) 収穫祭(かぼちゃフェスタ)&ノルディックウォーキング
 - (5) 十三講会式
2. 民家訪問調査
 - (1) スケジュール
 - (2) 聞き取り調査内容
 - (3) 調査結果

IV 平成 25 年度提案した活性化策 本年度実証実験の結果(まとめ)

V 報告会

1. 活動報告会

2. 現地報告会

VI おわりに

謝辞

I はじめに

1. サークル概要

私たち「がんばっぺサークル」は東日本大震災を契機に誕生したサークルで、2013年度は1年生3名、2年生9名で構成されている。県内の大学の学生や専門学校の学生が、被災者支援などのボランティア活動を展開するために「ふくしま復興支援学生ネットワーク」という連携組織を立ち上げた。桜の聖母短大もこのネットワークに参加し、ボランティア活動を継続的に行うための団体「SSJC マネジメントネットワーク」を昨年度卒業された先輩を中心に結成した。その復興支援活動は「～繋ごろう～桜色 smile プロジェクト」と名づけられ、復興支援ボランティアをマネジメントする形でがんばっぺ同好会として引き継いだ。平成24年度からはサークルとなり、「がんばっぺサークル・福島復興支援マネジメントチーム」として活動中である。

震災以降復興活動をしてきたが、このプロジェクトに参加する機会が与えられた。私たちは復興支援に貢献できることは何かと考えた時、地域を活性化するということが大切であると考え、このプロジェクト参加はサークルの新たな挑戦として受け止め、活動を進めてきた。また、復興支援と地域活性化を関連させることは学生において困難な課題であるが、教員及び地域の方々の助言・協力等を頂きながら学生中心に活動を展開し、学生のアイデアを生かしながら地域の活性化のお手伝いをしたいと考えた。

本年度の泉原地区集落活性化事業は2年目の実証実験であり、イベントなどのボランティア参加を通じて昨年度提案した活性化策を実施する活動を行った。

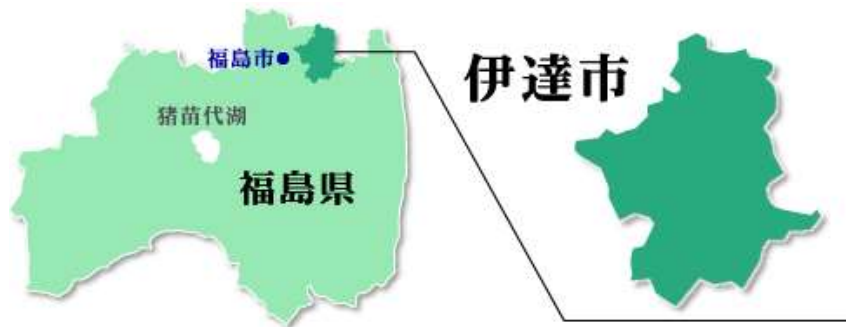


参加してくれた子ども達と（かぼちゃフェスタ）

2. 調査地域概要

(1) 位置

泉原地区は福島県伊達市のほぼ中央に位置し、市の中心部である保原の東に位置する。西に広瀬川、そして片貝山、北東に地区のシンボル鹿頭山、東を阿武隈の山々に囲まれた福島盆地と阿武隈山系の境にあたる。地区中心部は海拔70～90mのところのところに位置し、南東方向から北東方向に緩やかな平坦地で耕地に適している。



(2) 世帯

泉原地区の人口は548人、世帯数は162(平成23年3月)統計であり、20年前と比べて170人ほど、10年前と比べて100人ほど減少している。

西暦	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007	2009	2011
世帯数	164	162	161	159	158	159	159	161	162
人口	790	756	725	703	658	584	564	556	548

少子高齢化も著しく、高齢化率は37.1%(平成23年3月統計)と、霊山町に属する全9地区のうち最も高い数値を示している。また、地区唯一の学校である「伊達市立泉原小学校」は、平成23年3月をもって閉校となり、明治6年開校以来、127年の歴史に幕を閉じた。

地区名	泉原	掛田	山野川	中川	大石	山戸田	石田	下小国	上小国
高齢化率	37.1	28.7	31.1	33.3	34.8	29.3	33.7	29.5	33.3

(3) 歴史

泉原地区に人々が住むようになったのは、旧石器時代といわれている。南北朝時代には、南朝の北畠顕家が後醍醐天皇の皇子義良親王を奉じ、霊山を中心に陸奥の国府を多賀城から移し、一時的ではあったがこの地域に王城を築いた。また、同じ時期に日蓮宗泉原山蓮昌寺が建立され、江戸時代には日蓮宗では日本で唯一の餅柱を奉納する十三講会式が行われるようになり、祭りを賑やかにするため若者で祭り講が組織され、その後、蓮昌寺に隣接する番神宮を信仰する番神講社(いわゆる青年団)となり、祭りなど地域の融和と発展に尽力し、戦後は盆踊り、十三講祭礼を行う祭り青年団として、十三講会式とともに現在も続いている。

3. 基本データ

(1) 調査実施者

サークル名	がんばっぺサークル 福島復興支援マネジメントチーム
サークル代表者	
サークルメンバー	
指導教員名	
調査対象集落名	福島県伊達市霊山町泉原地区

(2) 活動スケジュール

(1)

5月18日	三色餅試作(婦人部×池田ゼミ)
5月26日	ノルディックウォーキング大会
6月19日	いちご酢試飲(婦人部×短大・調理科学実験)
8月13日	いずんばらサマーフェスティバル
9月13日	泉原女性部の会 体操指導
9月23日	かぼちゃフェスタ
9月28日	訪問調査
9月29日	訪問調査
11月15日	十三講会式準備
11月16~17日	十三講会式
1月31日	午後：福島県知事表敬訪問
2月1日	活動報告会：地域づくりオープンカフェ
2月11日	泉原地区報告会

Ⅱ 平成 24 年度提案した活性化策の概要

活性化策の概要

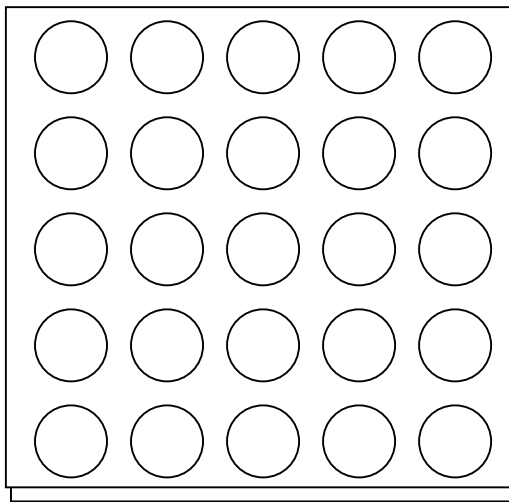
平成 24 年度提案した泉原地区の活性化策は 5 点である。

(1) 十三講会式の餅柱

十三講会式の餅柱の模様をもっと日常的に取り入れるという提案である。餅柱の模様はとてつも迫力があり、無病息災を願う赤、緑、白の組み合わせは、時間を忘れてしまうほど美しい。小さい頃からこの模様に触れ、この模様を身近に感じることは大切に思われる。大人だけでなく、子どもたちも餅柱に興味関心を持つことが伝統行事を維持・発展させることにつながるのではないかと考える。具体的な例をいくつかあげてみる。

①粘土を利用した餅柱づくり

★子どもに協力してもらい、柱に描かれているマークを作る。



I 粘土に色を付け一定の大きさにお餅の形を作る。

II 一つひとつに楊枝などを挿す。

III ハップースチロールやダンボール等にも上のようなものに 5x5 の印を付ける。

IV それにあわせて好きなように粘土を差す。

※個人での作成もいいが、クラスで一個、班で一個など協力して一つを作ることもよい。

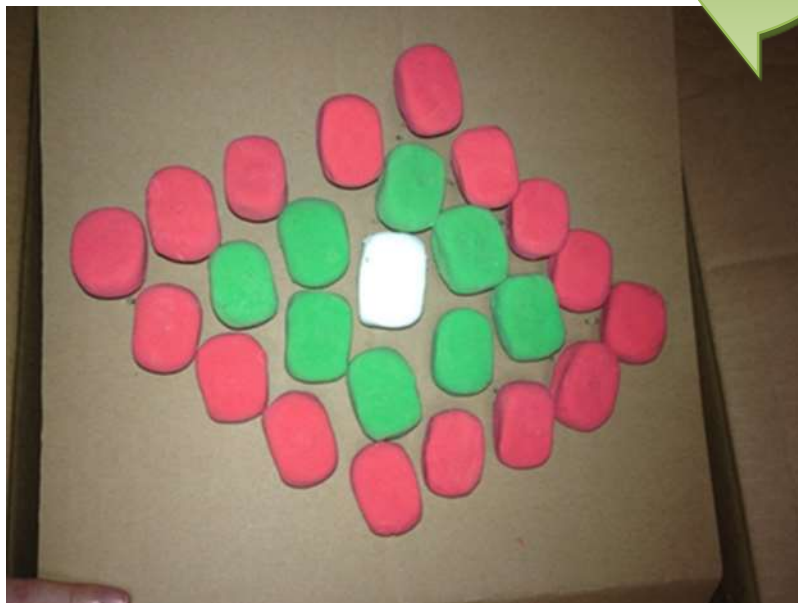
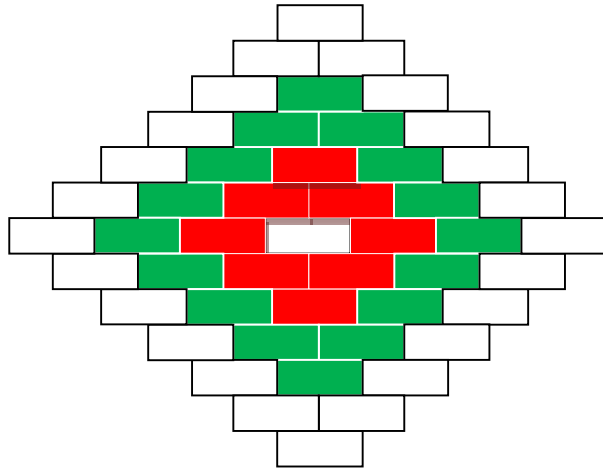
★子どもたちに作ってもらったものをお祭りの一角に飾る。

- ・ 子どもたちの作品を蓮昌寺に飾ることで、その作品を親が見に来る。
- ・ お祭りを次の世代に伝承することができる。
- ・ 子どもたちも楽しく取組める。
- ・ お祭りに参加する年代になったとき、自然と参加できるようになる。

②塗り絵

★子どもに協力してもらい、塗り絵を作る。

- I あらかじめ餅柱のデザインを書いた紙を用意しておく。
- II 子どもたちに一人一枚配り好きなように色を塗ってもらう。
- III それを集めてお祭りのときに飾る。



★子どもたちに作ってもらったものをお祭りの一角に飾る。

- ・ 子どもたちの作品を蓮昌寺に飾ることで、その作品を親が見に来る。
- ・ お祭りを次の世代に伝承することができる。
- ・ お祭りに参加する年代になったとき、自然と参加できるようになる
- ・ 幅広い年齢の子どもたちが参加できる。

(2) 大収穫祭&ノルディックウォーキング

泉原の宝の一つである豊かな里山景観を生かすノルディックウォーキングに力をいれる。泉原には「ヤッホ～」と叫びたくなる里山の景色、長いビニールハウス、菊の花、ごろんと大きく転がりそうで、足を止めてしまいたくなる土手かぼちゃ等の様々な宝物が発見できる。このような泉原の宝を楽しめるノルディックウォーキングのようなイベントは地区の活性化のために重要である。ノルディックウォーキングは誰にでもできる簡単なフィットネス・エクササイズである。普通に歩くよりもストックを使うので、普通の運動よりも40～50%効果的であり、ゆっくりしたペースで確実にフィットネス効果を上げることができる。一定のペースを保ち、運動中に無理なく会話ができ、参加者同士が交流しながら、健康維持ができる一石二鳥のスポーツである。

ノルディックウォーキングの具体的効果

- 心拍数を脂肪燃焼レベルまで引き上げ、1時間に約400～410カロリー燃焼させる（普通のウォーキングでは270～280カロリー）
- 上半身を使うことで特に上腕筋を引き締め、たるみを解消する。
- 肩と胸の筋肉を伸ばすことで女性はバストアップ効果もある。
- 首・肩のまわりの緊張と痛みを取り除き筋肉をリラックスさせる。
- 膝や関節への負担をかけない。特に体重超過気味の人の負担を和らげる。
- 最小の整形外科的衝撃で心臓血管を鍛える。



平成25年度からは桜の聖母短期大学の多くの学生に声をかけ、参加を促したい。若者が大勢参加することによって、笑顔と活力を届けられたらよいと考えている。

(3) 泉原の農産物を使って、商品開発！

泉原の農産物を使って商品開発を検討することが第三の提案である。泉原は兼業農家も多いが専業農家もある。宿泊調査の中で聞いたことは、風評被害により以前のように大量に農作物を育てることが困難になったということである。また、後継者不足により、自分の家で食べる程度に作るだけになっている。しかし、泉原には女性部という団体が存在しているので、商品開発も可能ではないだろうか。

例えば、泉原地区の農作物で桜の聖母の学生と泉原地区民の方々と商品を考える。あるいは、泉原の住民から商品開発案を募集し、試作し、決めていく。それが商品になれば、復興イベントやお祭りで売り出すこともできる。泉原特産の商品を通して、交流の輪が広がり、口コミなどで外部に発信していけたらよい。

「野菜クッキー」「漬物」（漬物の場合、霊山漬けとコラボしてはどうか。）「ジャム」などが考えられる。商品名に「泉原」の名前を入れれば、地名が知られる。泉原の農作物

で消費者の胃袋をつかみ、安全安心へのPRにもつながる。消費者との交流が広まり、さらに収益金が出るかもしれない。

(4) 勤労者交流センターや旧泉原小学校での展示会や講習会の開催

勤労者交流センターや旧泉原小学校で講習会を開催する。泉原地区民にはたくさん趣味を持っている方がおり、その趣味はプロ級の技術である。宿泊調査での自宅訪問を通して学生たちは、その趣味で取得した賞状やトロフィーを目にした。あるいは、賞はもらっていないがとても魅力的な趣味を持っている方もおり、技術のすごさや細やかさに圧倒された。「あれだけの技術を持っているのにもったいないな～」という声が学生たちからあがった。住民の持っている宝を勤労者交流センターや旧泉原小学校を開催場所にして、展示会を開催することを提案したい。展示会や講習会を通して若者は年配の方の持っている技術に触れることができる。このような場は若者との交流の場ともなる。年配の方にとっても自分の自慢の作品や技を披露する場ができ、心の活性化の場ともなりうる。

(5) 泉原地区の看板や張り紙

泉原地区の位置が誰でも分かるように看板を立てたり、張り紙などを掲示する。泉原地区と聞いても伊達市のどこに位置するのかわかる人は少ない。私たちも調査場所が決まったとき、学生の多くが福島出身だったが泉原地区の場所を知っている人はいなかった。近くの川俣町に住む学生でさえわからなかった。泉原に行くには、福島駅から阿武隈急行線に乗り、泉原の最寄りの保原駅で降りる。そこからまた車で20分ほどかかる。調査のために何度も通ったが、看板なども小さく、わかりづらいことを感じた。お祭りが開催されても張り紙がないため、行き方が明確でないことが難である。

泉原への行き方や興味を引き付けるような看板や張り紙を最寄駅や、泉原の入口に置いてはどうだろうか。お祭りやイベントなどに参加する際、看板や張り紙があると行く方法がわかり、気楽に行くことができる。

■ 1回目のチラシ：「これは何や？」という反応

初めてチラシを見た人は、なんのチラシか確認して瞬時に自分にとって必要かどうか判断し、今必要としないものは不要と判断する。

■ 2回目のチラシ：「何について言うてるんやろう」という反応

人が同じチラシを見ると「これは何だ？」という反応は薄くなり、「何について言っているのか？」という反応に変化する。

■ 3回目のチラシ：「なんやったっけ？」という思いだす反応

3回目になると、「ああ、知ってる」という反応に変わり、4回目のチラシ以降は3回目の反応を繰り返すことになる。

このように何年かチラシなどを作成し、配りつづければ、必ず効果が期待されると考える。

Ⅲ 実証実験の活動内容

1. 参加したイベント内容

(1) ノルディックウォーキング

5月26日、快晴のもと9時30分より泉原小学校跡地にてスタートした。第3回目となる今回は「霊山の歴史探訪ノルディックウォーキング大会」と称して開催された。幅広い年齢層の方が大勢参加された。はじめに講師による説明や準備体操が行われた。そして、～西郷頼母ゆかりの地を訪ねて～というサブテーマで、NHK大河ドラマ「八重の桜」で西田敏行氏演じる【西郷頼母】が宮司を務めた【霊山神社】を目標に往復コースを歩いた。霊山神社を訪ね、神主さんのお話を伺い、松平定信がこの地に霊山碑を建てたことや、西郷頼母が神社の神職を勤めたことなど、泉原にまつわる大切な歴史を学んだ。ご年配の方から小さなお子さんまで、自分の町の歴史について興味深く聞き入っていた。



(2) サマーフェスティバル

スイカ割りは初の試みであったが、多くの子ども達が参加してくれた。子ども達の楽しそうにスイカ割りをしている姿や笑顔を見ることができ、泉原のスイカをおいしそうに食べていた。何回もスイカを食べに来てくれた子どももおり、スイカ割りの効果は大きいと言える。サマーフェスティバル全体を通して、幼い子どもからお年寄りの方まで参加していた。霊山三育保育園の園児達による太鼓の演奏や福島東高校によるダンスパフォーマンスなどのさまざまなジャンルのパフォーマンスがあり、行っている側も見ている側も楽しんでいる姿が多かった。盆踊りが終わった後には、泉原地区で初めての花火を見ることができ、多くの世代の人々を魅了したと思う。今回のフェスティバルでは初の試みであるスイカ割りや花火大会を多くの人々が楽しんでいた。これからも続けていくことで参加者の人数を確保できると感じた。

(3) 体操指導(泉原女性部の皆さんとの交流)

体操指導の目的

「泉原地区の方々の健康増進」を目的として開催した。今回実施した体操やストレッチ

は簡単な動作からなるもので、日常生活の中で十分に取り入れることができる。

次に「交流」も目的としてあげられる。今回は多くの高齢層女性の皆さんが参加してくださった。私たち学生は学内ではもちろんであるが、学外で高齢の方々と交流することは貴重な体験である。今回の活動を通して多くの方々が学生と話をしてくださり、震災の話から自分の体験や家族のことなどを語り合うことができたことは大きな収穫であった。交流を通じて新たなつながりを広げることができた。

そして「がんばっぺ体操の発信」がある。今回は自分たちが活動の拠点としている泉原地区の方々を対象に体操指導をする意義はそこにあるように思う。サークルの代名詞ともいえる「がんばっぺ体操」は先輩方から受け継ぎ、本学の学園祭や高校生を対象にしたオープンキャンパス、仮設住宅などでも発表している。先輩方の考案した体操をどのように発信していくかがサークルの中でもこれからの課題になっている。

体操指導内容

ラーメン体操	説明→体操→説明→体操→休憩→体操
簡単ストレッチ	一緒に行う(着席した状態で)
がんばっぺ体操	説明→体操×2→休憩→体操
折り紙・お手玉	準備→4つ折り鶴説明→自由制作

体操指導を振り返って

体操指導を終え、私たちが目指していた3つの目的をすべて達成することができた。今回の体操指導は参加者、学生ともに全員で積極的に活動できたことが大きな成果だった。

今回の体操指導の対象は女性が主だったが、皆さん積極的に活動されていた。椅子を用意した状態で体操を行ったため、個人の体力差にも対応できたように思う。また、今回から体操のほかに折り紙やお手玉といった活動も取り入れた。折り紙やお手玉は指先の運動に効果的であり、参加者と一緒に活動できるため、コミュニケーションをとることもできた。実際に折り紙を折っているなかで、参加者の方の人生における経験や体験や家族の話など多くのことを聞くことができた。私たちも自然と打ち解け、自分の家族のように感じ、接していたように思う。会場は笑い声に包まれ、和やかな雰囲気で行進することができた。



(4) 収穫祭(かぼちゃフェスタ)&ノルディックウォーキング

泉原地区の住民の方を講師に招き、子どもたちと一緒に“ジャックランタン”作りを行った。用意された 50 個のかぼちゃはすべて泉原地区産のかぼちゃであった。完成したかぼちゃを見ると一つとして同じものがなく、一人ひとりの個性が表れていた。早く作り終えた子は 2 個目を作るなど、とっても楽しく気に入っている様子であった。



(5) 十三講会式

- ・日程 11月15日 餅柱等準備
- 11月16日 十三講会式
- 11月17日 山車

・活動内容

- 11月15日 餅きり・餅かざり
- 11月16日 餅飾り体験・ハッピーナッツクッキー販売
- 11月17日 山車と一緒に地域を回る



十三講会式は泉原地区蓮昌寺で行われているお祭りである。高さ 3 メートル余りの 2 本

の柱に赤・緑・白 3 色の餅を幾何学模様飾り仏前に奉納する全国でも珍しい仏事となっている。この 3 色の餅を食べると 1 年間無病息災で暮らすことができると言い伝えられている。ここで使われるもち米や柿・大根は全て地域でとれたものを使っている。この十三講会式の準備は地域の男性で行っている。前年度から桜の聖母短期大学の学生も参加させていただき餅きりや餅飾りを地域の方々に教えてもらいながら行った。餅柱は 1 本に対し 4 人で行うが、全体のバランスを見ながら餅を模様になるよう 1 つ 1 つさすのがとても難しい。餅をさし終わったら最後に菊を飾り完成する。完成した餅柱は近くで見ないと餅できているとわからないほど綺麗であった。今年度から始めた餅飾り体験は普段は体験することのできない女性を対象としたもので、小さめの柱に本物同様餅をさしてもらうというものである。普段は体験できない餅飾りを体験し、「こんな風になっているんだ」「難しいわね」という会話を交わしながら楽しそうに、かつ真剣に餅さしを行っていた。一般の方に参加していただくことで、さらに身近に感じられるものとなったと思う。今後もこのように一般の方々に参加してもらいながら十三講会式を盛り上げていきたい。

2. 民家訪問調査

(1) スケジュール

【1日目】

- 12:35 元泉原小学校着 荷物整理
- 13:00 調査開始
- 16:00 調査終了
- 16:30 月館花工房にて入浴 帰宅後食事
- 19:30 小中学生・太鼓保存会との交流太鼓体験
- 21:00 終了

【2日目】

- 5:30 地区内散歩
- 7:30 朝食・準備等
- 8:30 サークル内ミーティング
- 9:30 調査開始
- 11:30 調査終了
- 12:00 昼食・帰宅準備・終了

9月28日(土)~29日(日)の日程で一泊二日の民家訪問調査を行った。調査一日目は3つのグループに分かれ、各グループが9ヵ所の民家を訪問した。二日目は6ヵ所の民家を訪問し、お話を伺った。

9月28日(土)		9月29日(日)	
11:50	車 福島駅東口発	5:30	地区内散歩
12:04	阿武隈急行 福島駅東口発	7:30	朝食・準備等
12:22	阿武隈急行 保原駅着 泉原自治体迎	8:30	サークル内ミーティング
12:35	元泉原小学校着 荷物整理	9:30	調査開始 1グループ2世帯
13:00	調査開始 1G 2G 3G 1グループ3世帯 1世帯約50分 質問事項:別紙参照	11:30	調査終了
16:00	調査終了	12:00	昼食・帰宅準備・まとめ
16:51	阿武隈急行 保原駅発	13:12	阿武隈急行 保原駅発
16:30	入浴・帰宅後食事		
19:30	中高生・太鼓保存会との交流 質問事項:別紙参照		
21:00	終了		

(2) 聞き取り調査内容

- ① 泉原地区は好きですか？
- ② どんなところが好き/嫌いか？
- ③ 若者に泉原地区に残ってほしいか？
- ④ 生活していくうえで不便なところがありますか？
- ⑤ 泉原地区活性のために何が必要か？
- ⑥ 私たちに期待していることは何か？(地域活性のために)
- ⑦ 去年に比べて地域の活性化は進んでいるか。
- ⑧ もしあなたが若者だったら泉原地区を出たいか？/残りたいか？
- ⑨ あなたが思う泉原地区のいいところ
- ⑩ 買い物はどうしているか
- ⑪ こんなものが泉原地区にあったらいいのと思うもの
- ⑫ 泉原地区の祭りやイベントへの関心

(3) 調査結果

①泉原地区は好きですか？ ②どんなところが好き/嫌いか？

- ・地域のまとまりがいい
- ・自然が豊か近所の人と気軽に話できるところ
- ・台風や災害が少ない

③若者に泉原地区に残ってほしいか？

11 世帯の方々が残って欲しい 4 世帯がわからないという返答であった

【理由】 何件もの家が空き家になってしまうのが悔しい

時々子どもの遊び声が聞こえるとうれしくなる

何かあったときに助かる

職場がないから都会にいつてしまうのはしょうがない

④生活していくうえで不便なところがありますか？

6 件が不便なところがある 5 件が不便なところはない 4 件が無回答

【理由】 買い物・病院などへの交通手段がない

車を運転できる間はいいが運転できなくなってしまった時に不便

車を運転してくれる人がいるので今は不便していない

病院が迎えに来てくれる

⑤泉原地区活性のために何が必要か？

- ・職場があれば若者など人が集まる
- ・お嫁さん
- ・若い人がもつとこの地区に住んで結婚すること
- ・みんなが参加するイベント

⑥ 私たちに期待していることは何か?(地域活性化のために)

- ・ 一時的な交流ではなく継続的な交流を期待している
- ・ 過疎化にならないように泉原のいいところをアピールして欲しい
- ・ 家を訪問し傾聴(話を聞く)ボランティアをしてもらいたい
- ・ 若い人たちに来てもらいたい

⑦ 昨年に比べて地域活性化は進んでいるか?

進んでいる 11 件 変わらない/わからない 4 件

【理由】 ○ イベントへの参加が増えた

様々な人が地域に入って活動している

イベントが明るくなった

△ 短大生が活動しているということは聞くが、具体的に何をしているのかがわからない

⑧ もしあなたが若者だったら泉原地区を出たいか/残りたいか?

出たい 7 件 残りたい 2 件 わからない 6 件

【理由】 **出たい** 子どもができれば出ていく

働き口がない

自分が若い時には考えなかったが今は考える

交通手段がなく不便

残りたい 家業を継ぐため残らないといけない

方言が好き

⑩ 買い物はどうしているか?

- ・ 嫁が買ってくる
- ・ 出張販売がなくなってしまい困っている
- ・ 移動販売にたよっている

⑪ こんなものが泉原地区にあったらいいのと思うもの

- ・ スーパー
- ・ コンビニ
- ・ 雇用

⑫ 泉原の祭りやイベントへの関心

- ・ 高まっている
- ・ 運動会がなくなってしまって残念
- ・ 地域全体で参加することが大切



IV 平成 25 年度提案した活性化策 本年度実証実験の結果(まとめ)

(1) 十三講会式の餅柱

2013年度提案した「子供たちと共同で餅柱づくり」は、実施させることができなかった。しかし、今年度から自治会の企画で始まった「餅飾り体験」は普段は体験することのできない女性を対象としたもので、小さめの柱に本物同様餅をさしてもらおうというものだ。今回は、餅飾り体験を一般の方に参加していただくことができた。

(2) 収穫祭(かぼちゃフェスタ)&ノルディックウォーキング

2013年度は「学生を巻き込んだ活動」をサークルの活動の目的に掲げた。ノルディックウォーキングは、泉原地区における活性化事業の最初の活動ではじめて本学の学生にボランティア参加を呼び掛けたものである。ボランティア学生の活動の達成度を測るためにアンケート調査を今年度初めて実施した。以下がアンケートの調査項目である。

アンケート調査項目(平成25年7月17日実施)

1. 送迎バスを利用された方にお聞きします。集合場所は福島駅でしたが、短大も集合場所だと便利だと思いますか。
2. 泉原地区の雰囲気はいかがでしたか。
3. 泉原地区の住民の皆様とお話しする機会や関わる機会がありましたか。
4. ノルディックウォーキングに参加してみていかがでしたか？

アンケート調査結果

- 1の回答 (集合場所についてなので割愛)
- 2の回答 「活気があってよかった」「自然があふれていてよかった」
「自然に囲まれていて心地よかった」「空気がおいしかった」

ノルディックウォーキング実証実験の結果

平成 25 年度は「桜の聖母短期大学の多くの学生に声をかけ、参加を促したい。若者が大勢参加することによって、笑顔と活力を届ける。」3 の回答は「泉原の住民の方に話しかけてもらえたことが嬉しかった」「ウォーキング中や昼食は積極的にコミュニケーションをとることができた」などの意見が寄せられた。4 の回答は「豚汁がおいしかった」「往復 8 キロの長距離は大変だったが、ゴールすると達成感を味わうことができた。その分ご飯も大変おいしく感じた」

本学からのボランティア参加者は 8 名と少人数であったが、アンケート調査からイベントに対する満足感を聞くことができた。この結果を生かして、今後のボランティア募集の呼びかけに活用していきたい。

(3) 泉原の農産物を使って、商品開発！

「ご当地もち料理開発事業」として泉原の農産物を使って商品開発を検討することが第 3 の提案であった。本学の池田ゼミナールの学生と教員は、泉原地区の農産物の美味しさを活かした商品「三色餅」「飲むいちご酢」を目指し開発に取り組んだ。今年度は、商品を販売につなげることはできなかったが、商品開発の難しさだけでなく泉原産の農産物の商品開発の余地が無限にあることを再確認することができた。



(4) 勤労者交流センターや旧泉原小学校での展示会や講習会の開催

展示会や講習会の開催は本年度実現させることができなかった。

(5) 泉原地区の看板や張り紙

看板や張り紙に関しても、本年度実施にはいたらなかった。

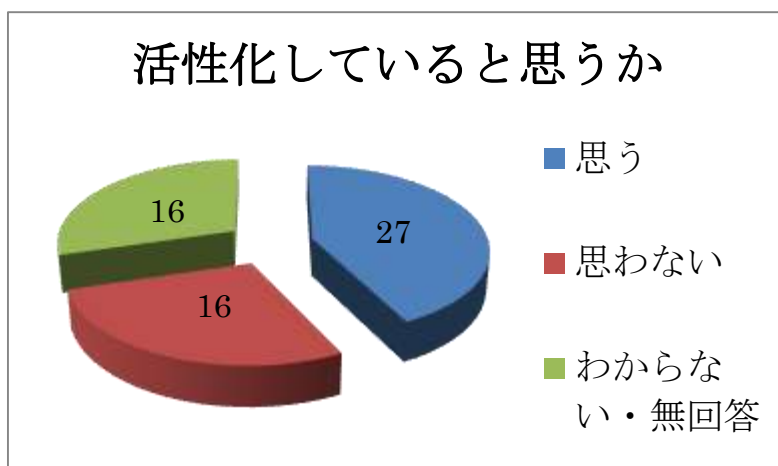
泉原地区全戸対象アンケート調査結果(訪問調査前実施)

昨年度の提案をふまえ、泉原地区全戸対象のアンケート調査結果について分析した。分析結果の一部を報告する。

<アンケート調査項目>

1. 世帯主名をお答えください。

2. 家族構成をお答えください。
3. 昨年(2012年)と今年(2013年)のイベントのうち、ご家族が参加された(参加される予定の)イベントをお答えください。
4. イベントに参加されなかった理由は何ですか。
5. あなたにとっての地域活性化とはどのようなイメージですか。
6. (5のイメージを踏まえて)昨年からがんばっぺサークルが地域の中に入って活動していますが、泉原地域が活性化していると思いますか。
7. その理由は何だと思えますか。
8. 今後の私たちの活動に期待を持っていますか。
9. 具体的にどのようなことを期待していますか。
6. 昨年からがんばっぺサークルが地域の中に入って活動していますが、泉原地域が活性化していると思いますか。



泉原の方の具体的な意見

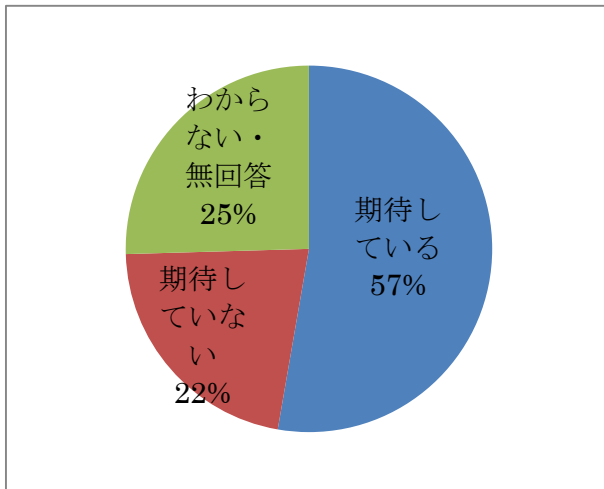
・活性化した

- 新聞に載ったりして泉原が広まってきた
- 孫世代とのかかわりが楽しかった
- 以前より住民の行事参加が多くなった
- 若者が積極的に参加している姿勢が見られる
- 学生の自由な考えがいい

・活性化していない

- 活動内容がわからない
- 地域との交流に一貫性がない
- 参加者がいつも同じ
- ある程度参加することにしほりを設けるべき(例. PTA など)

8. 今後の私たちの活動に期待を持っていますか。



・泉原の方の意見

- イベントの企画
- 継続した活動
- 新しい発想
- 農業体験
- 日常的な交流
- より多くの人の参加

9. 具体的にどのようなことを期待しているか？

- 若い力（新しい発想）を地域の中に注入してほしい。→日常的な交流
- 農業面でも参加してもらい、農業の仕事を楽しくできるとしてもらえるといい。
- (例). 地域運動会、盆踊り、収穫祭、芋煮会→継続的な活動

アンケート結果から分かったこと

「活性化への実感」「サークルへの期待」の2つの調査結果から、サークル活動の達成度や今後の課題が見えてきた。サークルへ期待するという意見の中で「継続的な活動」と「日常的な交流」をが挙げられた。

今年度の実証実験はイベントへの参加が中心となってしまう、提案した活性化策の実施を思うように進めることができなかった。そのため、泉原地区の方々との交流の機会がイベントのみに限られてしまった。しかし、民家訪問調査の中で「こうして家に来てくれるだけでうれしい」との住民の方の声を聞き、日常の中で継続的に泉原地区の方々との交流することが重要であることに気付かされた。イベントだけでなく継続的にかかわりを持つことで、サークルの活性化事業にも一貫性が出てくるのではないかと考えた。

今年度の泉原地区活性化事業に対して、イベントの参加者としての「受け身」の姿勢を打破できなかったことが反省点である。主体性をサークル部員一人ひとりが持ち、イベントの参加者であると同時に「運営者」であるという自覚を持ち、「運営者」としての活動を

していく必要がある。

泉原地区全戸対象のアンケート調査で、「サークルの泉原での活動を知らない」、「よくわからない」との意見もいただいた。泉原での活動の趣旨や活動内容が住民の方に十分に伝わっていないということが分かり、情報発信の重要性について再確認した。今まで以上に本学学生へのボランティア募集の呼びかけを行い、泉原地区とかかわりを持つことができる学生を増やしていきたい。

V 報告会

活動報告会

2月1日、サンルートプラザ福島にて「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」の活動報告会が行われた。参加団体10団体が7分間で活動報告をした。各団体にはブースが設けられており、がんばっぺサークルのブースでは、ミニチュア餅柱の展示と年間活動の写真をラミネートで掲示した。ブースにはたくさんの方が訪れてくださり、中でも十三講会式の餅柱について多くの質問をいただいた。「珍しい」「餅はこの後どうするのですか」「いつ行われているのですか」などの質問を通して参加者との交流を楽しむことができ、また、実際に泉原に訪れたいとの声もいただいた。この活動報告会では他団体との交流だけでなく、外部の方に泉原地区についてPRすることができたこともよかった。

現地報告会

2月11日に泉原地区の方々の前で今年度の実証実験の報告をすることになっている。

VI おわりに

今年度は活性化事業も2年目となり、昨年度提案した2つの活性化策の実施がサークル活動の中心であった。「十三講式餅柱」について粘土を使い子供たちと作るミニチュア餅柱を蓮昌寺に飾ること、その餅柱をデザインする「塗り絵学校」の開催が提案されていたが、今年度は実施にいたらなかった。しかし、自治会の企画で今年度より一般の女性を対象にした「餅飾り体験」を実施することができた。十三講会式は寺の宗派の伝統的な理由から、男性と寺の檀家に限って運営されており、餅柱や十三講会式で振舞われる料理を今まですべて男性のみで行なっていた。そのため十三講会式に関われるのは一部の男性に限られていた。今回「餅飾り体験」ということで一般の女性の方々は初めての体験に「こんな風になっているんだ」「難しいわね」という会話を交わしながら楽しそうに、かつ真剣に餅さしをされていたことが印象的だった。私たちにとっても一般の女性を対象にした「餅飾り体

験」の実施はこの泉原地区のうれしい変化だった。

「学生を巻き込んだ活動」として学校掲示板で全学生対象にボランティアの募集を行った。そのボランティア参加学生や泉原地区全戸を対象にアンケート調査を本年度初めて実施した。ノルディックウォーキングに参加したボランティア学生のアンケート結果から、泉原地区の自然の美しさや、イベントに参加した充実感や達成感などを読み取ることができた。また、泉原地区のアンケート調査結果からは、「活性化への実感」「サークルへの期待」について「無回答」や「わからない」という回答もあった。泉原地区でのサークルの活動が泉原地区の方全員に周知されていないことを痛感し、情報発信の重要性について再確認した。

昨年度提案した活性化策の実施において、提案したすべての活性化策を実施にこぎつけることができなかつたことは反省しなければならない。その理由としてイベントへ参加していてもサークルメンバーがイベントの運営側に回るとの意識が希薄であったことが挙げられた。いずんばらサマーフェスティバル等の大きいイベントに関しても、事前準備の参加についてサークル内での日程調節、自治会との調整がうまくいかず、実施に至らなかつた。これらのことを踏まえて連絡係を決めるなどして自治会との連絡を密にし、サークルとしても今までのような「受身」の姿勢ではなく、「主体的」にイベントに参加していく努力を続けていきたい。今後とも泉原地区の皆様とかかわりを持っていきたい。

福島県が主催する「大学の力を活用した集落復興支援事業」を通して 2 年間学んだことは私たちにとっても「宝」になっていくと確信している。

平成 25 (2013)年度
大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書

伊達市霊山町泉原地区集落調査

編者：桜の聖母短期大学 がんばっぺサークル

発行：2014 年 3 月